

令和3年度データサイエンスリテラシー

実施状況外部評価報告書

1. 教育内容について

データサイエンスリテラシーのカリキュラムは、次のように構成されている。

- 入門科目群の教育内容：データサイエンスが必要とされている社会背景、データの種類、基本的なデータ処理方法やデータを扱う者が守るべき倫理事項などの講義、及び、Pythonによる演習を行うことでの基本的なデータ処理方法の演習
- 統計科目群または数学科目群の教育内容：データサイエンスを活用するために必要な統計学や数学の基礎知識に関する講義
- 情報概論科目群の教育内容：データサイエンスを活用する上で必要な情報システムやデータ通信に関する基礎知識に関する講義
- 情報処理演習科目群またはプログラミング基礎科目群の教育内容：Pythonや表計算ソフトの活用を中心としたデータサイエンスに必要な情報処理技術に関する講義と演習

以上より、データサイエンスリテラシーの教育内容は、社会でデータサイエンスを活用するために必要な基礎知識・技術に関する教育を含んでいるものと判断する。可能であれば、この教育プログラムでは実課題を取り扱いデータ処理・分析の結果を判断し、どのように実社会に適用していくかといった計画から実行・評価までのプロセスを体験できる演習を実施いただきたい。

2. 修得者数について

令和3年度にデータサイエンスリテラシーを修了した学生数は26人である。このプログラムは、令和2年度に開設されたものであり、修了するためには複数年を必要とされるプログラムであるため、次年度以降、修了者数が増加することが期待される。しかしながら、1学年の募集定員に2,227人に対して令和3年度修了者数は少ないと判断できるため、修了者人数を増やすための取り組みが必要であると思われる。データサイエンスは今後の社会においてあらゆる業種で必要とされる知識・技術であるため、学部に関係なく、大学全体で修了者数増加を目指していただきたい。

3. その他

文系・理系を問わず、学生が卒業後に今後の社会で活躍するためにはデータサイエンスの知識・技術が必要不可欠である。このため、大学においてデータサイエンスを積極的に学習できる環境として、オンデマンドで学習できるシステムやオンラインでデータサイエンスの自主演習が実施できるシステムの導入を検討していただきたい。

上記のとおり、新潟大学外部の方に点検・評価していただきました。

令和4年5月20日

新潟大学における情報活用及び数理・データサイエンス教育
に関する検討ワーキング・グループ